

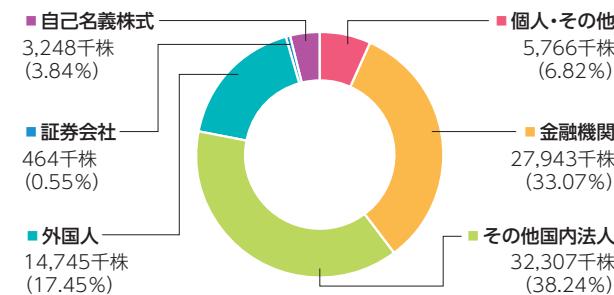
株式情報 (2020年3月31日現在)

株式の状況	
発行可能株式総数	288,000,000 株
発行済株式の総数(うち自己株式 3,248,324株)	84,476,500 株
株主数	9,839 名

大株主(上位10名)		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本航空株式会社	4,398	5.41
ANAホールディングス株式会社	4,398	5.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・ 京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	4.28
株式会社三菱UFJ銀行	3,408	4.19
株式会社みずほ銀行	3,300	4.06
三菱地所株式会社	3,111	3.83
大成建設株式会社	2,831	3.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,655	3.26
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 日本通運口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	2,337	2.87
株式会社日本政策投資銀行	1,829	2.25

(注)持株比率は自己株式(3,248,324株)を控除して計算しております。

所有者別株式数分布



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの100%植物油のインクおよびFSC®認証紙を使用し、印刷工程で有害廃液を出さない[水なし印刷方式]を採用しています。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)

各種お手続きのお取扱窓口について

住所変更や買取・買増請求等株主さまの各種お手続きのお取扱窓口は以下の通りです。

- (1) 証券会社等に口座をお持ちの場合
お取引の証券会社等になります。
- (2) 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)

電話でのお問い合わせ

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)

- ※土・日・祝日を除く9:00~17:00
- 各種手続きお取扱店
- みずほ証券**
本店および全国各支店
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取り扱いいたします。
- みずほ信託銀行**
本店および全国各支店
※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。

日本空港ビルディング株式会社

Japan Airport Terminal Co., Ltd.

〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号(第1旅客ターミナルビル)

TEL:03-5757-8000(代表)

<https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/>

日本空港ビルディング株式会社

Japan Airport Terminal Co., Ltd.

証券コード: 9706



株主・投資家の皆さまへ

第76期 株主通信

2019年4月1日 ~ 2020年3月31日



トップメッセージ

新型コロナウイルス感染症の流行の影響は深刻、国際線を中心に旅客が大きく減少

前期の事業環境としましては、訪日外国人旅客数は2019年暦年で3,188万人となり過去最高となる一方、新型コロナウイルス感染症の流行により訪日客数は大きく減少し、本年2月は約60%減、3月は約90%減と4月以降も引き続きその動向を注視しております。

航空旅客数につきましても、羽田空港国際線では、2月は中国便の約半数が欠航し、3月には中国便と韓国便が全便欠航したことに加え、欧米諸国など他の路線にも欠航便が広がり、旅客数は対前年同月比で80%以上の減となりました。羽田空港国内線におきましても、2月まで欠航便は無かったものの、3月上旬より計画減便が実施され、同月の旅客数は対前年同月比で約60%減となりました。さらに、当社が事業を営む成田空港等の国際拠点空港におきましても、2月以降の旅客数は国際線を中心に、大幅に減少いたしました。足元では、国内線は6月中旬までは70%以上の旅客便の欠航が続き、国際線も90%以上の欠航が続きました。今後も航空需要の見通しを見極めることが、困難な状況にあります。

羽田空港国際線発着枠の増枠に急激な航空需要の減退リスクに

その中で、当社グループでは、1月末から2月にかけて、中国・武漢市からの邦人帰国のために日本政府が派遣したチャーター便の受け入れにあたり、関係省庁や航空会社と連携して対応を行いました。その他にも、空港ターミナル内の一部施設の閉鎖や直営店舗の営業時間の短縮および一時休業など、状況に応じて速やかに対応しております。

羽田空港国際線発着枠の増枠に対応する国際化施設を供用開始

このような状況のもと、当社グループは、全てのステークホルダーに満足いただける空港を目指すとともに、事業および収益機会を創造し、持続的成長を果たすべく、長期ビジョンとして「To Be a World Best Airport」を掲げ、その長期ビジョンに基づき、中期経営計画(2016年度から2020年度)を策定し、羽田空港の「あるべき姿」の追求、強みを活かした事業領域の拡大・収益多元化、収益基盤再構築・競争優位の確立を戦略の3本柱とし、その実践基盤として組織・ガバナンスの再編・強化に取り組んでまいりました。

前期の主な課題として、「羽田国際化施設の供用開始後の運用に関する準備の推進」、「訪日中国人の消費動向の変化への着実な対応」、「2020年度のガイドラインの確実な達成を見据えた利益計画の遂行」に取り組み、特に、羽田国際化関連の準備として、羽田空港国際線の発着枠の増枠に合わせ、3月14日には国際線ターミナルを第3ターミナルへ名称変更し、3月29日には第2ターミナル国

対応する国際化施設を供用開始。速やかに行動できる社内体制の整備に取り組んでまいります。

際線施設の供用を開始しました。その他にも、昨年10月の第2ターミナル北側に事務室増床や、昨年12月の第3ターミナルの拡張に加え、最先端技術を活用したストレスフリーで快適な搭乗手続き「FAST TRAVEL」の推進、ユニバーサルデザインの強化、多言語対応の整備など、円滑な輸送の確保に必要な施設整備を行いました。

営業面におきましては、国内線と国際線の店舗で、新規オープンやリニューアルを行うほか、第2ターミナル国際線施設の商業エリアにおいては、消費動向の変化への対応として、『TOKYO AIR』をコンセプトに、東京の空気を体感いただける34の店舗を展開し、国内空港免税市場において初となるリアルとデジタルを融合させたバーチャルブティック「HANEDA VIRTUAL BOUTIQUE」をオープンしました。

その他の取り組みとしましては、2月に株式会社エージーピーの株式を取得し、持分法適用会社としました。今後、当社の事業領域の拡大や国内外空港の運営事業への展開などにおいて、新たなシナジー効果を創出できるものと考えております。さらに3月には、株式会社JTBと、羽田空港を起点とした新たな魅力づくりや交流創造、体験価値の向上につながる事業共創に向けて、包括的業務提携契約を締結しました。今後、第2ターミナルに新設したウェルカムセンターでの観光案内やプロモーション、食材を起点とした地域の魅力を伝えるカフェのプロデュースなど、羽田空港における新たなサービスの提供に加え、地域の活性化にも貢献してまいります。

他空港においても、熊本空港や海外におけるパラオ国際空港、モンゴルの新ウランバートル国際空港事業など

の各空港運営事業、羽田空港跡地で開発が進められているHANEDA INNOVATION CITYへの出資による新たな産業の創造など、空港ターミナル以外での事業においても、羽田空港で培ったノウハウを生かすとともに、新たなノウハウを獲得して事業領域の拡大・収益多元化に努めてまいります。

ESGの取り組みを積極的に推進

ESGの取り組みでは、地球環境に配慮した今後の対策として新リサイクル棟建設に着工し、2020年度内の稼働を予定しております。また、国内空港では初めて、ショッピングバッグを石灰石と植物由来樹脂を主原料とする「Bio LIMEX Bag」に切り替えを行います。これにより、羽田空港における石油由来プラスチックの年間使用量を約462t、



CO₂の年間排出量を約1,000t削減する効果を見込んでおります。今後もこうしたESGの取り組みを積極的に推進してまいります。

新型コロナウイルス感染症への対応

航空業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、国際線では世界的な渡航制限が行われ、国内線においても政府の緊急事態宣言の発出に伴い国内移動の自粛が求められ、航空需要の著しい減退につながっております。当社におきましても、羽田空港を利用されるお客さまおよび従業員等の感染拡大防止と安全確保を最優先に、監督官庁の指示に基づき、迅速に対応方針を決定し感染拡大防止策を実施してまいりました。引き続き安全確保を最優先に対策を継続するとともに、感染症の収束に伴う段階的な旅客便の運航再開にあたり、的確に対応してまいります。また、5月に段階的に緊急事態宣言が解除され、社会経済活動と感染拡大の防止との両立を進める「新しい生活様式」への移行が始まっておりますが、航空分野においても新型コロナウイルスの感染拡大予防ガイドラインが示されております。当社においても国土交通省や航空会社をはじめとする関係者と協議し、ターミナル館内においては、各所に消毒液を設置するとともに、椅子の背もたれや手すりなど高頻度接触部位の定期的な消毒作業を行っております。

また、「3つの密」を回避するため、換気の励行や、ロビー内での旅客同士の間隔を確保するため、席の配置の見直しなどを行っております。

今後も、感染症収束後のニューノーマル(新常态)に沿った空港ターミナル事業の運営を実践していくことで、感染拡大を防止するとともに業績のより早期な改善に努めてまいります。取り組みの方向性としては、事業継続計画の見直しを進めるうえで、絶対安全の確立を中心に人員の効率的活用やロボットの活用によりコスト面の強化を図る一方、eコマース等の強化に加えデジタルマーケティングの強化により、顧客のニーズの変化を捉えた対応を可能とする営業面の見直しを図り、旅客数が大幅に減少した状況においても、事業継続が可能な仕組みを構築してまいります。絶対安全の確立では、防犯・防災対策に加えて、感染症対策としてのバイオセキュリティやサイバーセキュリティ対策にも投資範囲を広げてまいります。先般、国土交通省から、災害や感染症等の対策に掛かる費用については、旅客取扱施設利用料、PSFCへの算入を認める旨の指針が出されております。当社も、これらの安全対策投資の実施にあたっては、コスト回収スキームを確立のうえ進めてまいります。人員の効率的活用においては、テレワークを活用した働き方の定着に加え羽田空港内に新たに導入された業務ロボットの活用により、旅客流動に弾力的に対応できる要員の再配置を検討し業務のスリム化を図ってまいります。また、羽田空港における業務ロボットの導入実績を踏まえて、国内外空港や空港外施設への展開を目指し収益事業の一つにしてまいります。営業面では、EC事業を推進するための専門部署を発足し、4、5年後を目途に現在の年間商品売上の5%にあたる約70億円の新たな商品売上の創出を目指します。さらには、空港を利用されるあらゆるお客さまのニーズに的確に対応し、利便性をさらに向上させるとともに、潜在するニーズを掘り起こし羽田空港の「場」を活

かした新たなビジネスチャンスを創造してまいりたいと考えております。こうした事業の推進の基礎となるデジタルマーケティングの取り組みを強化するにあたり、顧客マーケティングを戦略的かつ組織横断的に推進するための専門部署を発足し、羽田空港の新しい価値創造を具現化してまいります。

今回の新型コロナウイルス感染症は、航空業界にも大きな変革をもたらすことになりました。しかしながら、グローバル化の進展もある航空需要は今後も着実に伸びていくものと考えております。

当社としましては、経営方針の絶対安全の確立を最優先のうえ、羽田空港ターミナルのさらなる利便性、快適性、機能性を向上させるとともに、羽田空港自体の魅力さをさらに高め、絶え間ない羽田空港の価値創造と航空輸送の発展に貢献することで、当社の企業価値の向上に努めてまいります。

SKYTRAX社が実施する2020年国際空港評価で高評価

おかげさまで、羽田空港旅客ターミナルは、英国のSKYTRAX社が実施する2020年国際空港評価において、

[Global Airport Rating] 羽田空港第1・第2・第3ターミナル	6年連続 「5スターエアポート」獲得
[World's Cleanest Airport] 羽田空港第1・第2・第3ターミナル	5年連続 世界第1位
[World's Best Domestic Airport] 羽田空港第1・第2ターミナル	8年連続 世界第1位
[World's Best PRM / Accessible Facilities] 羽田空港第1・第2・第3ターミナル	2年連続 世界第1位
[World's Best Airports] 羽田空港第1・第2・第3ターミナル	2年連続 世界第2位

世界で最も美しい空港としての評価部門、国内線ターミナルとしての使いやすさや快適性などの評価部門、高齢者や障がいのある方など、移動時のサポートを必要とするお客さまへの取り組みに優れている旅客ターミナルとしての評価部門において、それぞれ世界第1位の評価をいただきました。また、空港の総合評価である「World's Best Airports」部門においては、2年連続で世界第2位となりました。今後もご利用のお客さまの安全を第一に、これからも利便性・快適性・機能性に優れた施設とサービスを提供してまいります。

第76期の期末配当金を1株当たり10円、年間では32円といたしました。
今期の配当は未定とさせていただきます。

株主の皆さまへの利益還元につきましては、羽田空港の一層の機能強化が求められる中、今後の大規模投資を考慮して内部留保を確保すると同時に、安定した配当を継続して実施することを基本方針としております。期末配当金につきましては、新型コロナウイルスの影響もあり、前回予想から10円減配して1株当たり10円とすることにしました。これにより中間配当金22円を合わせた年間配当金は、1株当たり32円となります。

なお、今期の配当につきましては、現時点では未定とさせていただきます。今後、業績予想を合理的に算定することが可能になった段階でお示しすることといたします。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

羽田空港 国際線増便に対応した旅客ターミナル施設 2020年3月29日から全面供用開始



当社と東京国際空港ターミナル株式会社は、首都圏空港機能強化として羽田空港の国際線発着枠の増枠と旅客の増加にあわせ、第3ターミナル(2020年3月14日に国際線ターミナルより改称)の増築と、第2ターミナルの一部を国内線国際線一体型の施設に整備し、2020年3月29日より全面供用を開始しました。

羽田空港国際線施設の4つのポイント

Point 1 新しい搭乗手続き (FAST TRAVEL) の推進

- 自動手荷物預け機を第2ターミナル国際線施設および第3ターミナルにおいても導入
- 「レールサイド チェックインサービス^{*1}」の開始(第2ターミナル地下1階に、チェックインおよび自動手荷物預けカウンターを設置)

Point 2 国内線と国際線の乗継機能の強化

- 第2ターミナルの国際線到着階と国内線出発階を同一階でつなげることで乗継機能が強化

Point 3 ユニバーサルデザインの追求

- スロープ勾配の緩和、多機能トイレへのフラッシュライト^{*2}の設置、段差のない旅客搭乗橋 (PBB) への更新

Point 4 訪日外国人の利便性向上

- 第2ターミナルに「ウェルカムセンター」を設置し、日本各地の情報やさまざまなサービスを提供

^{*1}レールサイド チェックインサービス: 鉄道との接続階に設置するチェックインカウンターでの手続きについて、当社グループが呼称として使用する造語です。
^{*2}フラッシュライト: 火災報知器や非常放送と連動して光るライト。トイレ個室内における耳の不自由なお客さま向けの緊急時の情報提供の手段として設置。

▶ 第3ターミナルの増築

第3ターミナルにおきましては、国際線増便に対応するためターミナルの一部を増築し、同増築部分においては、チェックインカウンターや手荷物引き取り設備を拡充したほか、搭乗口を2カ所新設するなどし、2019年12月から順次供用を開始しました。

第3ターミナル 増築概要



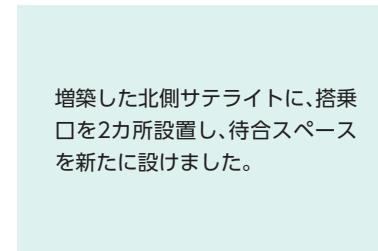
- チェックインカウンター・手荷物引き取りターンテーブル等を増設
- 増築した北側サテライトに搭乗口を設置
- 出国エリア南側にラウンジを設置 (SKYLOUNGE SOUTH)
- 羽田エアポートガーデン直結の連絡通路を設置

■ チェックインカウンター・手荷物引き取りターンテーブル等を増設



ターミナル本館の北側を増床し、3階出発フロアにはチェックインカウンターを増設、2階到着フロアには手荷物引き取りターンテーブル等を増設しました。

■ 増築した北側サテライトに搭乗口を設置



増築した北側サテライトに、搭乗口を2カ所設置し、待合スペースを新たに設けました。

■ 出国エリア南側にラウンジを設置 (SKYLOUNGE SOUTH)



これまでラウンジがなかった出国エリアの南側に、新たにスカイラウンジを設置しました。軽やかなシート素材を採用し、デザインもゆるやかなうねりで空を表現、開放感のある空間をお楽しみいただけます。

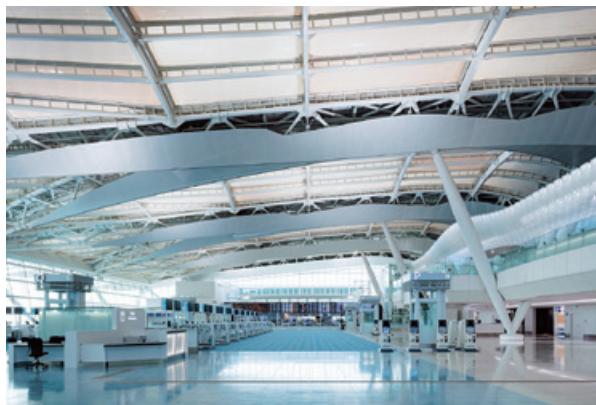


国際線施設を整備 新しくなった第2ターミナル

従来国内線専用であった第2ターミナルにおいては、国際線発着枠の増枠に対応するとともに、羽田空港の強みである豊富な国内線ネットワークとの乗継機能の強化を図るため、新たに24時間運用可能な国際線施設を整備しました。

具体的な整備としては、第2ターミナル国際線到着階と国内線出発階を同一階でつなげることで、乗継機能が強化しました。

さらには、ご利用になるお客様の利便性と快適性の向上を図るために、「FAST TRAVEL」を導入し、待ち時間の短縮を図りました。また、内観デザインは「空」をコンセプトに、商業エリアは『TOKYO AIR』と題し快適な空間に整備いたしました。



第2ターミナル国際線出発ロビー

1 利便性の向上を図る施設やサービス

第2ターミナルに新たに国際線施設を整備するにあたって、お客様の待ち時間の短縮や有意義な時間を過ごしていただけるような設備やサービスを導入しました。

▶ 「レールサイド チェックインサービス」を開始

鉄道系交通アクセスと旅客ターミナルの接続階となる地下1階に、チェックインおよび自動手荷物預けカウンターを設置。国際線に搭乗されるお客様が、ターミナルに到着後すぐに重たい手荷物から解放され、ターミナル内での移動を快適に、出国前の時間をより有意義に過ごしていただけるサービスです。



▶ スマートレーンと多頻度旅客専用搭乗手続き施設の設置

CT型機内持込手荷物検査用X線検査装置とスマートレーンを国際線施設に導入し、待ち時間の短縮ならびに検査の高度化、効率化を図りました。

また、国際線出発ロビーでは、ファーストクラスや航空機のご利用の多いお客様向けの専用搭乗手続き施設を設けました。



▶ 「ウェルカムセンター」の設置

国際線の到着口には、外国人観光客向けに、日本各地の情報やさまざまなサービスをワンストップでご提供できる「ウェルカムセンター」を設けました。



2 コンセプトは「空」 日本の伝統を感じられる内観デザイン



3階 国際線出発ロビー

第2ターミナル国際線施設は、第3ターミナルと同じ「空」をコンセプトに、日本の伝統文様の「麻の葉」をかけあわせ、空間を構成しています。

「麻の葉」文様は、古来より「成長」を意味する伝統文様のひとつです。過去から未来へ、羽田空港をご利用いただくすべてのお客様の繁栄や成長を後押しする活力となり、共に成長し続けたいという思いを込めて、一体感を感じられる「新しい空」をイメージしました。

3階の国際線出発ロビーは、航空機の離着陸が一望できる展望デッキのような開放感のある最大約18mの高さの大きな空間となっています。

屋根には膜を採用し、屋根材の軽量化により既存建物の柱や杭といった構造体を再利用し、ロビー天井面への設備機器取り付けを最小限に抑えることで減災対策を講じました。

膜屋根から降り注ぐ自然光がロビー全体をやわらかく包み込み、お客様の「安全・安心」にも配慮した空間を実現しました。

3 『TOKYO AIR』をコンセプトにした商業エリア

第2ターミナル国際線施設の商業エリアは、『TOKYO AIR』をコンセプトに、東京の空気を体感いただける34店舗（約4,300㎡）のラインナップでお客様をお迎えします。

出発ロビーから見上げた4階には「東京の空」、出国検査場を通過されたあとの、免税店モールは「東京の街」、搭乗前の待合エリアは「東京の間」をテーマに、『TOKYO AIR』を内部空間に表現しました。

特徴あるショップ×『TOKYO AIR』は、訪れるお客様の新たな感性を刺激し、これからの旅への高揚感をさらに高めます。

また、ご到着のお客様には、入国審査カウンターを抜けた正面の到着時免税店で帰国時のショッピングを楽しんでいただけます。



4階 商業区画



3階 免税店



2階 国際線出発コンコース

羽田空港のサービスが新しくなりました

当社グループは、2020年3月の第2ターミナル国際線施設の全面供用開始に合わせて、「スタッフユニフォーム」「羽田空港Webサイト」「フロアガイド」「ターミナル間無料連絡バスのデザイン」を統一しました。各種デザインやサービスを統一することで、一体的な運用を行い、より一層お客さまの利便性向上に努めます。

① 当社グループ4社のスタッフユニフォームのリニューアル

当社グループでは、CS理念「訪れる人に安らぎを、去り行く人に幸せを」のもと、お客さまへのサービス向上に日々取り組んでおりますが、スタッフユニフォームを国内線と国際線で統一することでグループ全体が一体となってこれまで以上に、空港をご利用されるすべてのお客さまに安らぎと幸せを感じていただけるサービスの提供に努めます。



■ 羽田旅客サービス株式会社



[デザインポイント]
やわらかな輝きを放つシャンパンゴールドを採用し、控えめでありながらも品格と優美、際立つ存在感を表現

[対象業務]
旅客案内サービススタッフ

■ 株式会社羽田エアポートエンタープライズ



[デザインポイント]
襟とポケットにライラックカラーをあしらった、優美で新鮮なカラーリングで、美しい佇まいを表現

[対象業務]
直営物販店舗(成田含む)や総合免税店の店舗スタッフ

■ 日本空港テクノ株式会社



[デザインポイント]
「ゴールド」をキーカラーとして、『世界一きれいな空港であることの誇り』を表現

[対象業務]
清掃スタッフ

■ 羽田エアポートセキュリティー株式会社



[デザインポイント]
警備服は信頼感を持たせながらも、モダンなシーンにふさわしい、シンプルなスタイリッシュさを表現
駐車場はお客さまへの安心感を与えるデザインにし、スタイリッシュさを表現

[対象業務]
防災センターや館内巡回警備員、駐車場スタッフ

② 国内線・国際線のWebサイトの統合

これまで国内線と国際線それぞれで運用していた羽田空港のWebサイトを統合しました。

Webサイト利用者の大半を占めるスマートフォンでの操作を重視し、モバイルファーストで直感的に操作ができるシンプルでストレスフリーなデザインになりました。日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語に対応しています。

<https://tokyo-haneda.com/>



③ フロアガイドのリニューアル

第1・第2・第3ターミナルのフロアガイドを統一したデザイン仕様になりました。



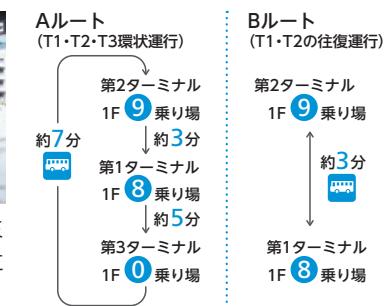
お客さまに分かりやすいようデザインをシンプルなものとし、スムーズに目的地へ行けるように、羽田空港全体マップ、ターミナル間移動の案内図を大きく掲載するとともに、各階の案内図等に画像を多用しました。

また、QRコードを読み込むことで、より詳細な情報へのアクセスを可能としました。

なお、環境配慮に取り組み再生紙を使用しています。

④ ターミナル間無料連絡バスのデザインをリニューアル

ターミナル名称の変更に合わせ、ルートによって異なっていたバスのボディカラーとデザインを統一し、ターミナル間無料連絡バスの認知性を向上させ、行き先を間違わずにご乗車いただけるようターミナル名を大きく表示し、加えてバスポールとバスのボディカラーを同色にし、ターミナル間無料連絡バスのバス乗り場を直感的に認識していただけるようにしました。



Topics 1 羽田空港を起点とした事業共創を見据え JTBと包括的業務提携契約を締結

当社は、株式会社JTB（以下、JTB）と、羽田空港を起点とした新たな魅力づくりや交流創造、体験価値の向上につながる事業共創に向けて、包括的業務提携契約を締結しました。

羽田空港利用者は年間8,500万人を超え、海外と日本各地を結ぶハブ機能として期待がより一層高まる羽田空港の機能向上と新たな価値の創造を目指す当社と、「交流創造事業」を事業ドメインとするJTBは、今後拡大する訪日外国人旅客や国内旅行者に向けた空港機能の価値向上、空港を起点として訪日外国人旅客と地域の魅力をつなぎ、人やモノ・コト体験の交流を創出することを目指して、相互に連携し、新たなサービスを提供することで、訪日外国人旅客をはじめとする旅行者の体験価値の向上、地域の活性化に貢献してまいります。

主な協業項目

1	訪日外国人旅客等への観光案内や情報発信機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> 第2ターミナルに新設された「ウェルカムセンター」での観光案内やプロモーション 訪日外国人旅客の「食」に関するコミュニケーションギャップの解消ならびに新たな需要の創出 市中免税店のプロモーション強化
2	モノ・コト・トキの交流を軸とした地方創生に関する協業	<ul style="list-style-type: none"> 地域産品や体験等、羽田の「場」「ノウハウ」を活用した地域の魅力発信と交流の創出 食材を起点として地域の魅力を伝える「和蔵場～WAKURABA～」カフェでの連携プロデュース
3	トランジット客等を想定した羽田空港起点の回遊創出	<ul style="list-style-type: none"> スカイホップバス*による回遊コース開発（2020年度は実証実験を通じて本格展開を検討） 訪日外国人旅客向けガイド付きツアーやアクティビティの販売（サンライズツアー等） 羽田空港周辺エリアを起点とした回遊コンテンツ商品の開発
4	カルチャーやキャリアがクロスオーバーする空港を活用した学びの場	<ul style="list-style-type: none"> 羽田空港で働く専門人材を通じた中高生向けキャリア教育プログラム

*スカイホップバス：日の丸自動車興業株式会社が運行する、乗り降り自由の周遊型定期観光バスサービスの名称。



Topics 2 株式会社エージーピーの株式を取得 (持分法適用関連会社化)

当社は、2020年2月4日に株式会社エージーピー（以下、エージーピー）の株式を26.81%取得し持分法適用関連会社としました。

エージーピーは、技術力を極め、環境社会に貢献することをグループ共通の企業理念とし、1965年の創立以来、日本の空港インフラ機能を担う企業として成長、発展してまいりました。空港の安全・安心を守るために培われた技術を応用展開しながら、小売電気事業、GSE等販売事業、さらには新たな事業にも積極的に取り組んでおります。

当社は、主たる事業内容に共通性・関連性があるエージーピーを持分法適用関連会社とすることで当社およびエージーピーの今後の事業展開において高いシナジー効果を図ってまいります。

株式会社エージーピーの概要

名称	株式会社エージーピー
事業内容	駐機中の航空機への電力、冷暖房等を提供する動力事業及び建物・諸設備、空港内外の主として空港関連設備の保守管理を行う整備事業
資本金	2,038,750千円
設立年月日	1965年12月16日

Topics 3 「HANEDA INNOVATION CITY」 2020年7月から順次開業



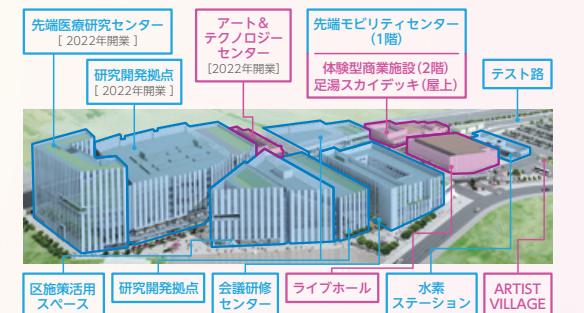
羽田みらい開発株式会社*が羽田空港跡地第1ゾーン整備事業（第一期事業）において開発を進めている「HANEDA INNOVATION CITY」（略称：HICity（エイチ・アイ・シティ）以下、HICity）は、2020年7月から順次施設を開業いたします。

HICityは、羽田空港の第3ターミナル駅の隣にある「天空橋駅」に直結する、延床面積約13万㎡超の大規模複合施設です。HICityは「先端」と「文化」を融合し、ヒト・モノ・コトの分野を超えた交流と新たな産業を創造いたします。

なお、本事業は大田区との官民連携事業であり、国家戦略特区の区域内にて実施します。

*羽田みらい開発株式会社 出資企業9社が設立した本事業のみを遂行する事業会社です。出資企業は、鹿島建設株式会社、大和ハウス工業株式会社、京浜急行電鉄株式会社、当社、空港施設株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京モノレール株式会社、野村不動産パートナーズ株式会社、富士フィルム株式会社
*本事業に係る情報は2020年3月31日時点のものです。内容につきましては変更の場合もございます。公式Webサイトをご覧ください。

施設概要（イメージ）



HANEDA INNOVATION CITY 公式Webサイト

公式Webサイトでは、施設における建物概要、ニュース、各種イベント情報をご覧いただけます。
<https://haneda-innovation-city.com>
HICity 検索

会社概要

商号	日本空港ビルディング株式会社 Japan Airport Terminal Co., Ltd.
設立	1953年7月20日
資本金	174億8,920万円(東証一部上場)
事業内容	(1) 羽田空港旅客ターミナルビルの建設、管理運営 (2) 物品販売業務 (3) その他のサービス業務

本社および営業所など

本社	東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 (第1旅客ターミナルビル)
東京事務所	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号 (丸の内ビルディング14階)
成田営業所	千葉県成田市古込字込前164番地 (成田国際空港内コスモビル)
大阪営業所	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地
中部営業所	愛知県常滑市セントレア一丁目1番地 (旅客ターミナルビル3階)

役員

代表取締役会長兼CEO	鷹城 勲
代表取締役社長執行役員兼COO	横田 信秋
代表取締役副社長執行役員	鈴木 久泰
取締役副社長執行役員	赤堀 正俊
取締役副社長執行役員	大西 洋
専務取締役執行役員	米本 靖英
専務取締役執行役員	田中 一仁
常務取締役執行役員	石関 佳志
常務取締役執行役員	丹治 康夫
常務取締役執行役員	蜂須賀 一世
常務取締役執行役員	小山 陽子
取締役(非常勤)	原田 一之
取締役(非常勤)	植木 義晴
取締役(非常勤)	木村 恵司
取締役(非常勤)	芝田 浩二

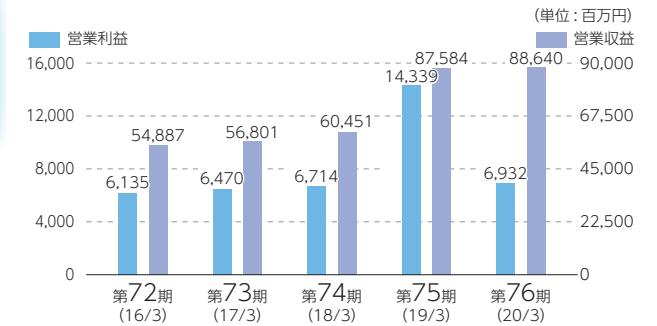
監査役	盛田 靖子
監査役	戸田 尚俊
監査役(非常勤)	竹島 一彦
監査役(非常勤)	岩井 幸司
監査役(非常勤)	柿崎 環
上席専務執行役員	知久 守一
上席専務執行役員	岩松 孝昭
上席専務執行役員	田口 繁敬
上席常務執行役員	徳武 大介
上席常務執行役員	藤野 威
上席常務執行役員	神宮寺 勇
上席常務執行役員	久保 健治
執行役員	永瀬 光統
執行役員	高橋 歩
執行役員	松田 圭史
執行役員	杉本 秀樹
執行役員	中條 謙太
執行役員	森 明裕

施設管理運営

前期比
増収減益となりました。



- 昨年度の「THE HANEDA HOUSE」の開業および航空会社等への貸室増による家賃収入の増加。
- 第2ターミナル北側事務室の増床に伴う修繕費の増加。第2ターミナル国際線施設の供用開始に伴う不動産取得税など一時費用の発生。

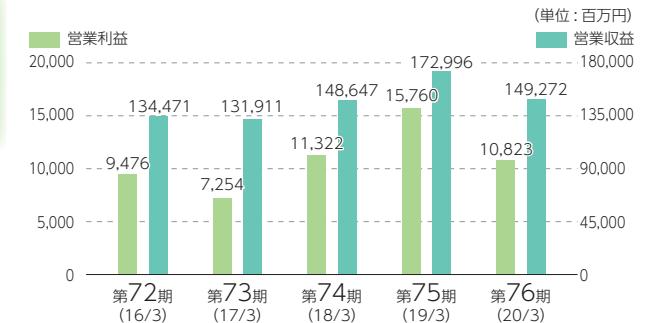


物品販売業

前期比
減収減益となりました。



- 第2ターミナル国際化工事に伴う店舗閉鎖による、国内線売店売上の減少。
- 新型コロナウイルス感染症の影響による、売店売上・卸売上の減少。

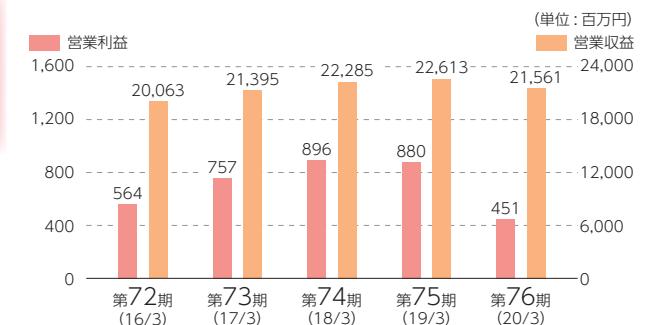


飲食業

前期比
減収減益となりました。



- 第2ターミナル国際化工事に伴う店舗閉鎖および新型コロナウイルス感染症の影響による飲食店舗売上の減少。
- 顧客外国航空会社の旅客数の減少に伴う機内食売上の減少。



連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表のポイント

① 資産合計

第2ターミナル国際線施設、第3ターミナルの増築部、第2ターミナル北側の事務室増床などの施設の完成等により、前期末に比べて367億8百万円増加し5,213億6千3百万円となりました。

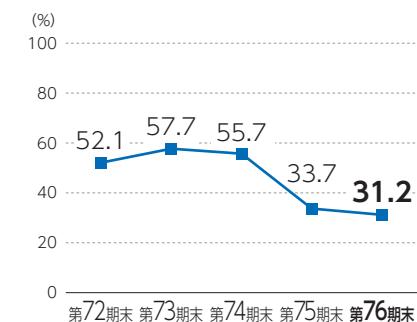
② 負債合計

無担保普通社債の発行や、長期借入金の追加調達等により、前期末に比べて361億9千9百万円増加し3,194億6千4百万円となりました。

③ 純資産合計

利益剰余金や非支配株主持分の増加等により、前期末と比べて5億9百万円増加し、2,018億9千9百万円となりました。この結果、自己資本比率は31.2%(前期末33.7%)となりました。

● 自己資本比率



(単位:百万円)

連結貸借対照表

	前期 2019年3月31日現在	当期 2020年3月31日現在
資産の部		
流動資産	123,817	114,248
固定資産	360,837	407,114
有形固定資産	292,393	335,551
無形固定資産	39,637	38,820
投資その他の資産	28,806	32,742
① 資産合計	484,654	521,363
負債の部		
流動負債	67,894	64,327
固定負債	215,370	255,136
② 負債合計	283,264	319,464
純資産の部		
株主資本	157,592	159,029
その他の包括利益累計額	5,807	3,575
非支配株主持分	37,990	39,294
③ 純資産合計	201,390	201,899
負債純資産合計	484,654	521,363

<https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/>

詳細な財務情報は、当社ホームページ「株主・投資家情報」をご覧ください。

(単位:百万円)

連結損益計算書

	前期 自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日	当期 自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日
④ 営業収益	273,618	249,756
営業総利益	141,489	135,130
⑤ 販売費及び一般管理費	119,007	125,238
営業利益	22,481	9,892
営業外収益	1,775	2,488
営業外費用	3,877	3,675
経常利益	20,379	8,705
特別利益	25,960	376
特別損失	3,311	473
税金等調整前当期純利益	43,027	8,609
法人税、住民税及び事業税	7,742	4,461
法人税等調整額	△381	△1,840
当期純利益	35,666	5,988
非支配株主に帰属する当期純利益	2,662	975
親会社株主に帰属する当期純利益	33,004	5,012

(単位:百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書

	前期 自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日	当期 自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	34,288	20,222
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,489	△57,334
財務活動によるキャッシュ・フロー	19,152	21,644
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	△9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	44,943	△15,477
現金及び現金同等物の期首残高	42,329	87,273
⑥ 現金及び現金同等物の期末残高	87,273	71,795

連結損益計算書のポイント

④ 営業収益

新型コロナウイルス感染症の影響により、国内線と国際線の旅客数が減少したことで、物品販売業、飲食業の売上が減少し、前期比8.70%減の2,497億5千6百万円となりました。

⑤ 販売費及び一般管理費

昨年度より供用開始した第2ターミナルボーディングステーションやサテライト施設、P4駐車場の増床部等の減価償却費、運用経費の増加により、前期比で増加しております。

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

⑥ 現金及び現金同等物の期末残高

無担保普通社債を発行したものの、新型コロナウイルス感染症の影響や大規模設備投資による一過性の費用の発生のため税金等調整前当期純利益が減少いたしました。その結果、前期末に比べ減少しております。

株主優待のお知らせ

当社では3月31日時点の株主さまに対して、毎年6月下旬の年1回、株主ご優待券を贈呈させていただいております。

優待内容

	株主さま全員に		3年以上保有の株主さまに
	株主ご優待券	株主ご優待割引券	長期保有優待
ご所有株式数 100株以上 1,000株未満	1枚 1,000円分 	割引券(10%引) 5枚 	+ VJAギフトカード1,000円券 1枚 
ご所有株式数 1,000株以上 10,000株未満	2枚 2,000円分 	割引券(10%引) 5枚 	+ VJAギフトカード1,000円券 2枚 
ご所有株式数 10,000株以上	3枚 3,000円分 	割引券(10%引) 5枚 	+ VJAギフトカード1,000円券 3枚 

ご利用になれる店舗／対象となる株主さま

- 株主ご優待券：羽田空港ターミナル内店舗をはじめとする当社指定の店舗にてご利用いただけます。
- 株主ご優待割引券：羽田空港、成田空港、関西空港および中部空港等の当社指定の免税店舗でご利用いただけます。

株主ご優待券	株主ご優待割引券	長期保有優待
<ul style="list-style-type: none"> ● 羽田空港、成田空港、関西空港および中部空港の当社指定の店舗 ● Japan Duty Free GINZA (三越銀座店8階) ● Air Bic Camera <small>※一部店舗、商品(金券等)によってはご利用いただけない場合がございます。</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 羽田空港、成田空港、関西空港および中部空港の当社指定の免税店舗 ● Japan Duty Free GINZA (三越銀座店8階) <small>※店舗によっては一部ご利用いただけない商品がございます。</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象：保有継続期間が3年を超える株主さま (毎年3月31日現在の株主名簿に、当社株式1単元(100株)以上の株主として記載または記録され、かつ、同一株主番号で9月30日および3月31日の株主名簿に連続7回以上記載または記録された株主さま)

※Japan Duty Free GINZAは空港型市中免税店です。羽田空港または成田空港から国外へ出国されるお客さまがご利用いただけます。なお、商品の購入にはパスポートと出国日時がわかるもの(航空券等)が必要となります。
※ご利用可能店舗は、新規オープン・撤退・業態変更等により変わる場合がございますことをご理解賜りますようお願い申し上げます。

詳しくは、以下のURLをご覧ください。

https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/stock_information/preferential.html

証券コード 9706
2020年6月25日

株主各位

東京都大田区羽田空港三丁目3番2号
日本空港ビルデング株式会社
代表取締役会長 鷹城 勲
兼 CEO

第76回定時株主総会決議ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本日開催の当社第76回定時株主総会において、下記のとおり報告及び決議されましたので、ご通知申し上げます。

敬具

記

- 報告事項**
- 第76期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果を報告いたしました。
 - 第76期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

- 決議事項**
- 第1号議案** 剰余金処分の件
本件は、原案どおり承認可決され、当期の期末配当金は1株につき10円と決定いたしました。
- 第2号議案** 取締役15名選任の件
本件は、原案どおり取締役に次の15氏が選任され、それぞれ就任いたしました。
鷹城勲、横田信秋、鈴木久泰、赤堀正俊、大西洋、米本靖英、田中一仁、石関佳志、丹治康夫、原田一之、植木義晴、木村恵司、芝田浩二、蜂須賀一世、小山陽子
なお、原田一之、植木義晴、木村恵司及び芝田浩二の4氏は、社外取締役であります。
- 第3号議案** 監査役2名選任の件
本件は、原案どおり監査役に次の2氏が選任され、それぞれ就任いたしました。
岩井幸司、戸田尚俊
なお、岩井幸司氏は、社外監査役であります。
- 第4号議案** 当社株式に対する大規模買付行為への対応方針(買収防衛策)の継続の件
本件は、原案どおり承認可決されました。

以上

第76期期末配当金のお支払いについて

- 金融機関への振り込みをご指定の方
「配当金計算書」及び「お振込先について」を同封いたしておりますのでご確認ください。
- 株式数比例配分方式をご指定の方
「配当金計算書」及び「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしておりますのでご確認ください。
- 振り込み方法のご指定がない方
「配当金計算書」及び「配当金領収証」を同封いたしております。「配当金領収証」に必要事項をご記入、ご押印のうえ、2020年6月26日から2020年7月31日までの間にお近くのゆうちょ銀行または郵便局(銀行代理業)にてお受け取りください。
※「配当金計算書」は配当金をお受け取りになった後の配当金額のご確認や確定申告を行う際の資料としてご利用いただけます。

以上